新潟大学におけるカリキュラムの見直し

歯学部 山田 好秋

理念：歯学部では“科学的トレーニングを身につけた歯科医師や歯学研究者を育成すること”を基本理念として教育を進め、目的を達成するためにカリキュラムの見直しを行ってきた。

カリキュラムの見直し：歯学部では平成6年2月に、歯学部教育検討委員会の検討結果を受けて6年一貫教育に移行した。そのため教養を1年で経過して専門にあがってくる学生（平成7年度入学生）の専門教育のためのカリキュラム編成を行う作業委員会、カリキュラム編成委員会が作られた。平成7年、8年、9年期は、教養を2年間過ごした学生と、教養を1年で経過して専門にあがった学生の、2学年を同時に教育する、移行期の専門教育カリキュラムを編成した。基礎科目では2学年合同授業を、臨床科目では同時期に2学年別々の授業を行い、講義・実習の実施が繰り重複を極めた。移行期カリキュラムも本年度で終了し、明年平成10年度には2、3、4年の授業が全て新カリキュラムに移行する。

新カリキュラムでは、1年を2期に分け、さらに1期を2つに分け、1年を4分割して講義単位（1ユニット）とし、それぞれの講義の授業時間数を決めた。1ユニットは週1回90分授業8回で構成され、週1週1回の講義で2ユニットになる。学部の開設以来、授業は新講義の開設ごとに変動して複雑になっているのを、ユニット単位で組むことにより、時間割表が単純になった。

4年間で行っていった専門教育を、5年間で行うことになり、過密になっていた歯学部専門教育をゆったりと組むことができるようになった。1年分の余裕は、不十分だった新設講義の授業時間の充足、臨床実習の充実に当てたほか、週1回午前を2、3、4年の各学年に学年別特別枠、週1回午後を全学年に全学年共通特別授業枠として配置した。この学年別特別授業枠で、2、3年次にネイティブスピーカーによる英語の選択制の授業を組んだ。この他、専門分野とは直接関係しない科目として情報処理を2年生の特別授業枠に開講し、附属図書館旭町分館のマルチメディア設備を利用してコンピュータの使い方や図書館の利用法などを体験させた。平成9年度には高齢社会に向けて在宅医療や介護への対応が求められていることを受けて、広く医療の現場で活躍している人たちにお願いし、学際的・実践的な講義を組んでいる。さらに、この授業枠にボランティアセンターからの講師をお願いし、学生のボランティアへの認識を高める配慮をした。このように、特別授業枠は従来のカリキュラムで欠如した、今後新設される授業科目、ボランティアや研究など特色ある科目のために取り組む予定である。新カリキュラムへの移行が完了した際の具体的な授業科目については、カリキュラム編成委員会で検討を続けている。

新カリキュラムの作成は、移行期のカリキュラムを含めて複雑を極め、それぞれの授業科目を何年生に設定するかは、それぞれの講義の思惑がぶつかり合い、調整に追われた。授業時間割では実習室の割振りなどもからなんでさらに複雑になり、移行期カリキュラム、新カリキュラムとも、それぞれ10以上の委員会案が作成された。

今後のカリキュラム改革の方向：大学を取り巻く状況は厳しくなっており、大学審議会や21世紀医学・医療懇談会の答申などを参考に、今後のカリキュラム編成時に考慮すべき点を列挙した。
1．編入等、入試の多様化に伴う改革
2．卒後研修制度（2年の卒後研修の義務化）との整合性
3．学部改革に関連した変革
4．介護等、社会の要請に応えられる人材育成に向けた改革

— 203 —